

ラテンアメリカ時報

INFORMACION
LATINOAMERICANA

No. 1409

特集：社会を取り込む(ソーシャル・インクルージョン) 2014/15年 冬号 ー持続的成長の基礎づくり

持続的成長に向けたラテンアメリカ諸国の取り組み

ー女性のエンパワーメント・ジェンダー平等を中心に

条件付き現金給付政策の発展ー女性のエンパワーメント・ジェンダー平等の視点

男女共同参画の画期的な取り組みーシウダ・ムヘール「女性の街」

ラテンアメリカにおける女性のエンパワーメントとIDBの取り組み

ドミニカ女性の社会進出における現状

女性のエンパワーメントーウーマン・アイを通して

メキシコの社会階層格差と女性の社会進出

ボリビアの鉱山と働く女性ー標高4000mの地で働いて

ラテンアメリカ時事解説

2014年ブラジル大統領選挙の結果と展望

チリ・ウルグアイ・アルゼンチンへの経済ミッションに参加して

連載・読み物

歴史、図書案内

ほか



そのまま演説を続けた。この時の大統領は26年前に彼女を追い出したイバニェスだったからあてつけとも取れるが、彼女は故意にそうしたわけではなく、単なる思い違いだったようだ。この時は特にひどかったとしても、彼女の演説が間違いだらけだったり場違いだったりするのは有名なことだった。話すべき時に黙り、黙すべき時に話したりすることもよくあった。また、服装に無頓着なこともつとに知られている。あるラテンアメリカの外交官はまだミストラルのことをよく知らないまま、話題の人である彼女をパリで一流のレストランに招待したのだが、現れたミストラルは農婦そのものといったいでたちでしかも大柄だったから周囲から浮いていている事が余計に目立ち、いつも妻を最新モードで着飾らせている彼は隠れてしまいたい

ほど恥ずかしかったという。だがそのプロレタリアのような肉体に宿るのは誇り高い貴族精神であり、彼女が祈るのはいつも他人のためだった。それは裸足の子供やアンデスの先住民だったり、迫害されるユダヤ人だったりする。彼女が最後に署名したのはハンガリー動乱の鎮圧に対する抗議だった。ミストラルは1957年、アメリカのロングアイランドで67歳の生涯を終えた。ミストラルの関連書としては芳田悠三氏著の伝記『ガブリエラ・ミストラルー風は大地を渡る』（JICC出版局 1989年）が読み物としても面白く、詩の翻訳は田村さと子氏が多数手がけておられる。

（いとう しげこ）

ラテンアメリカ参考図書案内



『一粒の米もし死なずば』

深沢 正雪 無明舎出版 2014年月 219頁 1,900円+税

1908年に日本からの最初の組織的なブラジル移民が笠戸丸で入ってから5年後に、食糧が不足していた日本に米を供給することを夢見たイグアッペ植民地が拓かれた。サンパウロ市南西約200kmに設けられたこのレジストロ地方の植民地建設には、桂 太郎はじめ明治時代の政治家や実業界の大物も関わった国策でもあったのである。だが、試行錯誤した米作はうまくいかず、34年にセイロン島からこっそり持ち込まれた紅茶により戦後ブラジルでの「紅茶の都」といわれるまでに至ったものの、20世紀末から今世紀に入って為替の変動により国際競争力が衰え、現在では一貫生産茶家は天谷製茶だけになったという、波瀾万丈の歴史があるのだが、なぜか公式日本移民史ではこれまであまり言及されてこなかった。

本書はサンパウロの邦字紙『ニッケイ新聞』の編集長が、日本移民のレジストロ地方入植100周年を迎えたのを機に、100超の文献資料に目を通し現地に足繁に通って、同紙に9か月間にわたって連載したルポルタージュ127本を集大成した、波瀾万丈の苦闘の歴史とその百年後の到達点までの気骨ある明治の日本人南米移民史の舞台裏にせまる労作。

（桜井 敏浩）